

人の残す絵画的記録の価値 —堀潔の描いた東京の分析を通して—

大正・早稲田建築ゼミ
大村麻衣子

堀潔 世界記憶遺産 デジタルアーカイブ
東京都電 水彩画 太平洋画会

序論

■はじめに

近年発達しつつあるデジタルアーカイブにおける問題点として「デジタルアーカイブ化する対象選択」¹が指摘されている。この問題とは、古く貴重な資料を優先してデジタルアーカイブ化することで、比較的新しいながらも重要な資料をデジタルアーカイブ化せず、後年になり、比較的新しい資料が劣化したり、最悪の場合失われてしまうことである。原因として、対象選択の明確な基準が設けられていない点が挙げられる。そこで、本研究の目的は未整理の資料を整理し、基準を設けることが難しい昭和期の絵画の史料価値を見出す一つの手法を提示することとする。

■研究手法

堀潔(1912-1989)の作品の分析を、堀の生きた背景や描いた場所を通して行なう。対象とする作品は、新宿歴史博物館²の所蔵する堀潔の作品1600点以上のうち、描かれた年の判明している1517枚の絵画とする。堀潔の経歴から堀潔の創作期間を時期に分類し、その時期毎に堀潔の作品の傾向を分析する。傾向は〈場所〉〈モチーフ〉〈特別な場所⁴〉〈堀潔の作品と交通の関係〉を指す。これらの傾向から堀潔の作品の価値を見出す。そのために、2011年5月に世界記憶遺産への登録が決定した山本作兵衛(1892-1984)の作品と日記は、史料価値の認められた記録のひとつであるため堀潔の作品と比較を行なう。



図1 堀

第1章 堀潔の人物像

堀潔は当時の一般的な庶民⁵であったことを示し、堀の人生を作品数と契機となった出来事から6つの時期に分けることができた。また、第2章以降で扱う作品の範囲を、1927年の太平洋画会研究所入所以降とする。

■堀潔の背景

英語学者として知られる堀英四郎(1874-1963)を父に持つ。人生のうち1916年～1946年と1965年～1989年までの56年間を新宿区に住んだ。父の影響から少年期には一度神学校に進学したが、1927年から7年間太平洋画会研究所*に通い絵画を学んだ。第2次世界大戦による東京大空襲で母と妹を亡くし、堀自身も大火傷を負った。火傷を負いながらもなお、戦後の東京を多く描いている。堀は画家以外にも4つの職⁶を経験している。それらは第2次世界大戦による画家の社会的立場から、あるいは家族の扶養のためであったりと、画家として生計を立てたいと考えていた堀にとっては不本意なものであった。しかし日本聖書神学校(以下JBS)の管理人の職は、かつて神学校に通った経歴を持つことから、他の経験した職業と一線を画している。最終居住地が戸山ハイツであることから堀が決して裕福では無かつ

たことが解る。⁷

■『絵日記 戦中・戦後』からみる堀潔

『絵日記 戦中・戦後』のあとがきに、堀が自身を一般庶民と称する文がある。この絵日記で堀は当時の官僚や軍部にたいしてはげしい憤りを覚えながら、必死に生きる人々を描いている。必死に生きる人々を堀は自分と同じ人間であると考えている。

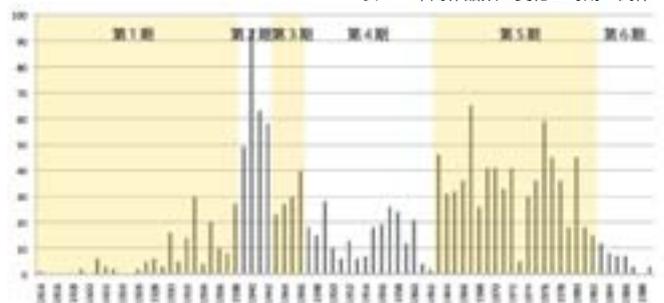
■堀潔の人生と作品数の変化

新宿歴史博物館所蔵の堀潔の作品数は、描かれた年によって大きく変動している。(表1)表と経歴から、最も作品数の多い1940年(94枚)は紀元二千六百年奉祝美術展覧会入賞した年であり、JBSの管理人をしていた1965年から1983年の19年間は年間平均作品数が33枚と多いことなどが明らかとなった。また、幼年期の作品についてはそれ以降に写真などから書き直されたものである可能性が高いため、扱う作品を太平洋画会研究所入所以降とする。

■堀潔にとっての契機

堀の作品数の変化の傾向と、堀の人生に起こった出来事から堀の画家人生を6つの時期に分けることができた。このような6つの時期と分けた要因となった出来事は、堀潔にとっての契機であると考えられる。具体的に判明した契機は各展覧会での入賞(第2期)、結婚(第4期)、父英四郎の死及び明治百年(第5期)、戸山ハイツへの転居(第6期)である。

表1 年間作品数の変化と時期の関係



第2章 堀潔の作品に見られる傾向

研究対象とした1517枚のリスト化、描いた場所が判明した作品をGoogle Earthへマッピングした。ここから堀潔の作品の傾向を明らかにする。

■堀潔の描いた場所

堀潔は新宿区に長く住んでいたこともあり、新宿区内で描いた作品も多いが、Google Earthへのマッピングにより堀が描いた範囲が明らかとなった(図2)。



図2 全作品のプロット

Worth of pictorial record which people leave

-through the analysis of Tokyo which Hori Kiyoshi drew-

OMURA Maiko

ここから、堀潔は決して居住した新宿周辺だけを描いたのではないことがわかる。しかし堀の作品のうち場所の判明している1265枚中1029枚が東京で描かれている。

■堀潔の好んだモチーフ

作成したリストから堀のよく描いたモチーフを記載し、モチーフ毎にカウントした。その結果、堀が特に好んだモチーフは赤レンガ建築、橋、河川、学校など⁸であったことがわかった。その例となる絵を図3, 4に示す。更に、堀は同じモチーフを好んで繰り返し描いていることがわかる。



図3 堀潔『慶大図書館』(1977)

■堀潔にとっての特別な場所

堀の住居や職場から離れて、かつ無名な場所を、堀にとっての特別な場所であると位置づけ、分析を行った。その結果、堀潔にとっての特別な場所を複数明らかにした。



図4 堀潔『吾妻橋と浅草』(1930)

■作品と交通の関係

作品をマッピングした Google Earth の地図の上へ、更に当時の交通網をプロットし重ね、その間に深い関連性があることが明らかになった。(図5, 6, 7) その関連性は戦前の1944年までは特に都電、戦後の1945年から都電廃止の1971年までは都電と山手線、その後都電が廃止された1972年以降では地下鉄に見られ、交通の発達とともに変化していることがわかった。

第3章 堀潔の作品の持つ価値とその活用

2011年5月に世界記憶遺産への登録が決定した山本作兵衛の作品と日記を、史料価値の認められたもののモデルと考えて堀の作品と比較した。その結果堀の作品の史料価値が明らかとなった。

図8 堀潔『お江戸日本橋と帝国製麻』(1935)



■山本作兵衛の作品

世界記憶遺産への登録が決定したのは、山本の描いた絵画及び日記である。これらの作品は、自らも筑豊の炭坑夫であった山本が筑豊の炭坑夫の仕事や生活を記録したものである。

■山本作兵衛の作品と世界記憶遺産選定基準⁹

世界記憶遺産には大きく分けて2つの選定基準がある。それは真正性及び世界的な重要性である。山本の作品は世界的な重要性に於いて、1 炭坑夫の目線で描かれている事、2

炭坑夫の生活を知るための資料が少ない事、3 作品とそれに添えられた文章から炭坑夫の生活を知ることができる、が認められ世界記憶遺産に定められた。

■堀潔の作品と世界記憶遺産選定基準

真正性: 堀潔が描いた1914年~1989年の作品であることが確認できている。世界的な重要性: <場所> 主に東京 <人類> 東京の交通を大きく反映した作品である <題材・テーマ> 芸術の分野として既に存在していた技法や技術のため重要性は低い <形式・様式> 既に消失した東京、市電の様子を知る事ができる / 白黒写真が主流であった時代の都市の色を知る事が出来る。



図9 高速道路が架かる前の日本橋

■堀潔の作品と山本作兵衛の作品

世界的な重要性について堀の作品は山本の作品に劣っている。その理由は既に写真が存在していたため東京を撮った写真は今も多く残っている点にある。しかし堀の作品は当時の色彩を知ることができる。(図8-10) また、現在の東京を形作ったのは交通であり、交通に大きく関係している堀の作品は東京を形作った交通を知る上で大きな手がかりとなり得る。



図10 高速道路が架かる前の日本橋

結論

本論では堀潔作品のような絵画的記録は描かれている背景や時代を反映させていることを明らかにした。特に堀の作品は東京を描いた昭和期の作品であり、その作品が描かれた場所と交通の関連性が強いことがわかった。ここから、絵画的記録の価値を見出すためにはその作品のモチーフや、何の影響が大きいのかを分析することでその記録の価値が見出されることを示した。また記録の具体的な活用として堀の作品は東京の交通の発展、当時の色彩を知る上で活用できることが明らかとなった。

謝辞

本研究を書くに当たってご協力を頂いた新宿歴史博物館、林ムツミ氏に厚く御礼申し上げます。

図版出典

図1 新宿歴史博物館 [http://www.regasu-shinjuku.or.jp/\(2011/6/20閲覧\)](http://www.regasu-shinjuku.or.jp/(2011/6/20閲覧)), 図2, 5, 6, 7 Google Earthへ筆者加筆により作成, 図3, 4, 8 新宿歴史博物館所蔵, 図9 東京WEB写真館 [http://www.metro.tokyo.jp/\(2011年10月31日閲覧\)](http://www.metro.tokyo.jp/(2011年10月31日閲覧)), 図10 図9へ筆者加筆

脚注

1. 『日本におけるデジタルアーカイブの成立と課題に関する一考察』, 毛利康秀, 2005, 全国大学史資料協議会編, p.21 2. 新宿区立新宿歴史博物館条例(昭和63年4月1日条例第12号)に基づいて設置され1989年に新宿区三栄町に開館した区立の博物館 3. 描かれている内容として用いる 4. 第2章で述べる 5. 政治などの特別な地位をもたない普通人として用いる 6. 太平洋美術学校 臨時講師、海軍軍医学校 嘱託、東大伝染病研究所 非常勤職員 7. 低所得者向の都営住宅である戸山ハイイツに居住していたため 8. それぞれ1517枚中の8.90%, 8.70%, 6.86%, 6.27% 9. 『はじめて学ぶ世界遺産100 世界遺産検定3級対応』, 世界遺産検定事務局, 2010, 毎日コミュニケーションズに「真正性: 記憶遺産の本質や出所(複製・模写・偽造品でないか)が確認されていること / 世界的な重要性: ユニークで代替不可のものであり、その損失や悪化が人類の遺産にとって損害となるもの。長期間にわたり、または世界の特定の文化圏において、多大な影響を与えたもの。歴史上、プラスまたはマイナスの影響を与えたものでなければならぬ。」とある

図 5-7 の 作品のプロット 居住地から2km以内の作品のプロット 勤務地から2km以内の作品のプロット 都電/市電 国鉄 トロリーバス その他の色の線 地下鉄

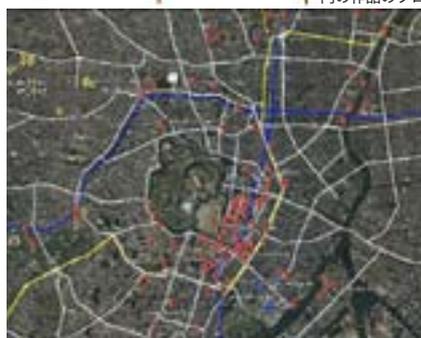


図5 1944年までの作品プロットと交通網



図6 1945年~1971年の作品プロットと交通網



図7 1972年~1989年の作品プロットと交通網